

TODO

ケーキの詳細な作り方を調べること

不思議の圈のアリス

物事の原因を突き詰めていけば、それはどこまでも果てしなくて、
悪いことに深夜に考え出すと、
それは結局、自分のどうしようもない性格にたどり着くので、
これはどうしようもなく死にたくなるし、
それはもう、これからの運命を予言してるんじゃないかって気分になる。

だから物事を前向きに考えようとして、
考えた結果、
私は原因の根本を外に向けることにした。

つまりね、
全ては自転車のタイヤがパンクしたことにあるのだ。

1. アリスの日記帳

私ที่บ้านにこもりがちになってどれだけ経ったか、
私の頭には2つのことが占めていた。
それは、ケーキの作り方と、20年前の交通事情のこと。

/// TODO

私がうんと小さかった頃、
私はちょうどこの道で車にぶつかったことがある。
隣に親がいて、私はなぜだか急に飛び出して、
車のブレーキが早かったので、私はなんとも無かったけれど、
後日病院に検査に連れて行かれたのを覚えてる。
ちょっと驚いたことに、
子供の私はこの道路を、もっと広大なものと思っていた。
それこそ、4車線も、6車線もあったような気がしたのに、
子供の小さな視点での記憶というのは、まるで頼りにならない。
これが、今日の散歩で得た教訓というわけなのです。

子供だった私が突然飛び出した理由は、今実際に見てみて分かった。
見渡す限り、この道路には横断歩道が無いのである。
きっと親の真似をしたのだらうと思う。

私がちょうど真ん中あたりまで出ると、
車が急に曲がり、アルミ缶を潰すみたいに、電柱にぶつかって停まった。
時間帯のために誰も通りかかる人はいなくて、
潰れた車は、まるで無人だったみたいに静かで、
本当に面倒だなとも思うけど、
自分でも困った性格だと思うけれど、
私ったら困ってる人は見過ごせないタチだから、
しょうがなくへしゃげた車の中を覗きこんでみた。
運転席の窓から覗くと、女の人が静かに寝ているように見えた。

もしもし、
私は静かに頬を叩いた。
もしかしたらけど、
力加減が分からなくて、撫でるようだったかもしれない。
自分も相手も変な体勢だったし、頬から首筋を撫でたかもしれない。
正直なところ、この頃のことを思い出すとまず、この心配をしてしまう。
同性の大人相手に、なんだかいやらしい触り方をしてしまったんじゃないかっていうこと。
相手はなんとも思っていないかもしれないけれど、
そうあってほしいものだけど、
私のことを、相手がどんなだろうと無遠慮に体に接触するふしだらな同性愛者だと思ったのじゃないかと。
たとえどんなにお金がなくて、乞食のような真似をするようになったって、
上品だけは守りぬかなければならないのに。